

## Anti-Tumor Necrosis Factor $\alpha$ versus Tocilizumab in the Treatment of Refractory Uveitic Macular Edema: A Multicenter Study from the French Uveitis Network.

Leclercq M, Andrillon A, Maalouf G, Sève P, Bielefeld P, Gueudry J, Sené T, Moulinet T, Rouvière B, Sène D, Desbois AC, Domont F, Touhami S, El Chamieh C, Cacoub P, Bodaghi B, Biard L, Saadoun D.

Ophthalmology. 2022 May;129(5):520-529. doi: 10.1016/j.ophtha.2021.11.013. Epub 2021 Nov 16. PMID: 34793830.

ぶどう膜炎はしばしば慢性的な眼内炎症の結果として黄斑浮腫を併発し、遷延化すれば黄斑変性に陥り恒久的な視力低下が引き起こされます。現在、黄斑浮腫の治療として副腎皮質ステロイド薬が使用されているが、副腎皮質ステロイド薬の全身投与ではしばしば全身性副作用の発現が問題となり、インプラントを含めた眼局所投与においても高率に発生する高眼圧症や白内障が問題となります。そのため、近年、副腎皮質ステロイド薬に代わる薬剤として生物学的製剤が注目されるようになってきました。

本報告は、ぶどう膜炎に伴う黄斑浮腫に対する抗 TNF  $\alpha$  抗体製剤[インフリキシマブ(IFX)・アダリムマブ(ADA)]と抗 IL-6 抗体[トシリズマブ(TCZ)]の有効性を比較したフランスの多施設後向き観察研究の報告です。全体で 204 症例が登録され、6 ヶ月の時点で黄斑浮腫の完全消退もしくは部分的消退が達成できた割合は、IFX/ADA 群の 46.2%、TCZ 群では 58.5%でした。浮腫の完全消退は「10 mg/日以下のステロイド量において黄斑浮腫の完全な消退（中心窩網膜厚 $\leq$ 300 $\mu$ m+網膜内浮腫消失）」と定義され、TCZ 治療は浮腫の完全消退と有意な相関を示しました。一方、有害事象は 20.6%に生じ、重篤な有害事象は 10.8%で認められましたが、新規の有害事象の懸念は示されませんでした。

本研究は研究デザインにより多くのバイアスを抱えているため（例えば TCZ 群の 76%は IFX/ADA 治療歴有）、同研究グループは新たに非感染性ぶどう膜炎に対する ADA と TCZ の前向き比較試験（NCT02929251）を準備しています。TCZ は本邦でぶどう膜炎に対し認可はされていませんが、新規薬剤としての可能性に期待が持たれます。

（担当者：神戸大学 松宮 亘）